

岐阜大学農学部獣医学科が目指す新獣医学教育構想の理念

獣医学（動物の医学）は、生物学を基盤とする応用科学であり、動物の健康の維持・増進を図ると共に、人の健康と福祉に貢献することを目標とする。この目標を達成するために、獣医学に関する知識および技能を教育することにより、獣医学に求められる社会的使命を生涯にわたり遂行することのできる人材を養成することを新獣医学教育構想の理念とした。この理念に基づき、岐阜大学が目指す新獣医学教育構想の基本として以下の6項目を定めた。

（１）獣医学ジェネラリスト教育

6年制一貫教育を通し、すべての学生に獣医学の各分野にわたる基礎的知識と基本的技能を偏りなく修得させ、獣医学の全分野にわたって優れた理解力と総合判断力の涵養を図る。このことにより、将来獣医学関係のいずれの領域においても高度な専門家並びにオピニオンリーダーとなりうる資質の養成を目指す。

（２）体験学習・実践教育

「知識を全て授ける」式の教育は、獣医学分野においても知識量の増大によって不可能になっている。知識・技能は基本的なものを精選して伝えることにとどめ、「基本的な知識の連携・発展により、新しい事象を理解し、問題を解決する能力」の開発を図る。応用能力を高めるため、実習、演習、卒業研究、インターンシップなどの体験に基づく実践教育を積極的に取り入れる。

（３）世界に通用する教育

獣医師が関与する業務の急速な国際化に伴った獣医学の知識・技術水準を保証するために、教育内容・規模の国際基準化が進んでいる。そこで、新獣医学教育は、（財）大学基準協会が求めている規模、すなわち学生60名にあたり教官72名（教授18名以上）以上の教育組織で行うこととする。

（４）臨床教育および獣医公衆衛生学教育の充実

臨床教育については、分子・細胞レベルから個体・集団レベルまでの生命現象の総体的理解およびこれらに基づいた病気の予防・診断・治療まで、一貫性のある教育内容とする。このため、各分野の獣医学部教官と学外の臨床家による有機的な協力体制で教育を行う。

社会獣医学として位置付けられている獣医公衆衛生学については、その守備範囲が広範化してきているので、人獣共通感染症学、食品衛生学、環境科学などに分けて、教育の充実を図る。

（５）国際化教育

国際化社会のなかで活躍するには、専門知識・技能に加えて、国際的に情報を交換できる能力が必要である。この能力を強化する目的から、外国語教育、特に国際語である英語の運用力と情報活用能力の育成に力を注ぎ、国際交流が可能な獣医師を養成する。特にわが国では、今後アジア地域での役割がますます大きくなることが予想されるので、欧米のみならずアジア地域にも視点を向けた教育を行う。

（６）特色ある教育

「個性輝く大学教育」が強く叫ばれている。これまでの岐阜大学獣医学科での研究活動の経緯、入学生の興味、将来展望、社会状況などを鑑み、「小動物臨床」および「野生動物と生態系」を特色ある教育として掲げ、積極的に実践する。

新獣医学教育構想の理念に基づくカリキュラム案

【新獣医学教育の授業科目および卒業要件】

授業科目は、一般教養授業科目、基礎授業科目および専門授業科目により構成される。さらに、専門授業科目は、全学生に斉一的な教育を行う斉一教育科目および学生が選択して受講する専修授業科目からなる。

獣医学卒業に必要な最低取得単位数は182単位とする。内訳として、別表1に示すように、一般教養授業科目28単位、基礎授業科目19単位および専門授業科目135単位を取得しなければならない。講義、演習および実習別の開講科目数、学年別開講科目一覧および時間割を別表2～5に示す。

別表1 卒業に必要な科目の最低取得単位数

一般教養 授業科目	基礎授業 科目(必修)	専門授業科目		合 計
		斉一授業科目 (必修)	専修授業科目	
		基礎獣医学 31 単位	動物別獣医学 7 単位	
		器官別獣医学 23 単位	総合獣医学 15 単位	
		資源動物 13 単位	特別研究・学外実習 6 単位	
		公衆衛生 11 単位	特別講義 8 単位	
		家畜衛生 11 単位		
		野生動物 7 単位		
		法律・生命倫理など 3 単位		
28 単位	19 単位	99 単位	36 単位	182 単位
135 単位				

別表2 各開講授業科目の講義、演習、実習の単位数

		講 義	演 習	実 習
一般教養授業科目		28 単位		
基礎授業科目		14 単位	3 単位	2 単位
専門授業科目	斉一授業	72 単位	6 単位	21 単位
	専修授業	24 単位	19 単位	3 単位
合計(一般教養を除く)		110 単位	28 単位	26 単位

【新獣医学教育の授業科目とその概要】

I 一般教養授業科目 28単位

II 基礎授業科目（必修） 19単位（講義14+演習3+実習2）

1. 基礎生物物理学（2）-----生物電気、機能分子運動、呼吸循環力学
2. 基礎化学（2）-----分子構造と結合、化学平衡、反応速度論
3. 細胞生物学Ⅰ（2）-----発生・進化・生体のマクロ・ミクロ構造と生理機能
4. 細胞生物学Ⅱ（2）
5. 生化学Ⅰ（2）-----代謝と機能、細胞機能の分子メカニズム
細胞内情報伝達
6. 生化学Ⅱ（2）
7. 生物学実験Ⅰ（1）-----細胞、組織、臓器、液性因子を用いた
理化学実験の原理と手技
8. 生物学実験Ⅱ（1）
9. 生物統計・情報処理演習（1）-----データ入力と統計解析、図表作成、
文献検索、レポート作成
10. 獣医学概論（2）-----獣医学の歴史と使命、公開授業
11. 自然科学英語演習Ⅰ（1）-----科学英語の読解、獣医学用語、英会話
12. 自然科学英語演習Ⅱ（1）

III 専門授業科目

○ 齊一授業科目（必修） 99単位（講義72+演習6+実習21）

A. 基礎獣医学教育（30単位：講義22+演習2+実習6）

1. 基礎獣医学演習（1）-----動物の取扱い・接し方
2. 比較解剖学・生理学演習Ⅰ（必修1）-----各種動物の解剖、生理
3. 比較解剖学・生理学演習Ⅱ（必修1）
4. 薬理学総論（2）-----薬の体内動態、濃度-作用関係、作用機序、麻酔薬、抗炎症薬、抗生物質
5. 病理学総論（2）-----組織・細胞の障害発生機序、代謝機能
障害病変の組織学的特徴
6. 病理学実習（1）
7. 病原生物学総論Ⅰ（2）-----細菌、ウイルス、真菌、原虫、寄生虫の
種類、生理的性質、検出
8. 病原生物学総論Ⅱ（2）
9. 病原生物学実習Ⅰ（1）
10. 病原生物学実習Ⅱ（1）
11. トキシコロジー（2）-----一般・特殊毒性、毒性病理、安全性評価
12. 免疫学（2）-----免疫系の構造と機能、免疫介在疾病学
13. 放射線学（2）-----放射線物理学・生物学

14. 臨床総論 (2) ----- 内科および外科的疾患の病因、病態生理、
診断・治療の基礎
15. 臨床病理 (2) ----- 臨床検査および診断
16. 基礎臨床実習Ⅰ (1) ----- 臨床総論に対する実習
17. 基礎臨床実習Ⅱ (1) ----- 画像診断、麻酔学
18. 疫学 (2) ----- 疫学の原理と応用、方法論
19. 薬理学・トキシコロジー実習 (1)
20. 遺伝病学 (2) ----- 遺伝および遺伝病

B. 器官別獣医学教育 (23単位：講義16+実習7)

1. 血液学 (2) ----- 発生、形態、機能 (赤血球、白血球、
血小板、血液凝固、骨髓、脾臓)
病理、病態、検査法、治療
2. 血液学実習 (1)
3. 循環器・呼吸器病学 (2) ----- 発生、形態、機能 (心臓、血管、肺、気
管) 病理、病態、検査法、治療
4. 循環器・呼吸器病学実習 (1)
5. 消化器病学 (2) ----- 発生、形態、機能 (口、咽喉、食道、胃、
小腸、大腸、肝臓、脾臓) 病理、病態、
検査法、治療
6. 消化器病学実習 (1)
7. 泌尿器・生殖器病学 (2) ----- 発生、形態、機能 (腎臓、尿管、膀
胱) 病理、病態、検査法、治療
8. 泌尿器・生殖器病学実習 (1)
9. 運動器・脳神経病学Ⅰ (2) ----- 発生、形態、機能、病理、病態、検査法、治療
10. 運動器・脳神経病学Ⅱ (2)
11. 運動器・脳神経病学実習 (1)
12. 内分泌・代謝病学 (2) ----- 発生、形態、機能、病理、病態、検査法、治療
13. 内分泌・代謝病学実習 (1)
14. 皮膚・眼科学 (2) ----- 発生、形態、機能、病理、病態、検査法、治療
15. 皮膚・眼科学実習 (1)

C. 資源動物の応用に関する教育 (13単位：講義10+演習1+実習2)

1. 家畜管理学 (2) ----- 飼育環境、動物行動応答、飼育管理
2. 動物栄養学 (2) ----- 栄養学、消化吸収、エネルギー - 産生
3. 畜産学概論 (2) ----- 畜産物の生産・加工・流通・消費
4. 牧場実習 (1) ----- 畜産物生産における動物管理法
5. 動物育種学 (2) ----- 遺伝、遺伝的改良、交配
6. 実験動物学 (2) ----- 動物実験、実験動物、病態・疾患モデル
7. 実験動物学実習 (1)
8. 動物繁殖学演習 (1) ----- 受精卵移植等の生物工学の原理と技術

D. 公衆衛生に関する教育 (11単位：講義8+実習3)

1. 獣医公衆衛生学概論(2) ----- 国民衛生、疾病の予防・防疫
2. 人獣共通感染症学(2) ----- 人獣共通感染症の制御
3. 人獣共通感染症学実習(1)
4. 食品衛生学(2) ----- 食中毒、食品添加物、食品衛生管理
5. 食品衛生学実習(1)
6. 環境衛生学(2) ----- 環境保全、大気・水質汚染、廃棄物
7. 環境衛生学実習(1)

E. 家畜衛生に関する教育 (11単位：講義8+実習3)

1. 家畜衛生学(2) ----- 家畜衛生、疾病予防・防疫、
栄養障害、代謝障害、中毒、衛生動物
2. 獣医感染症学Ⅰ(2) ----- 動物感染症の制御(細菌、真菌、原虫)
3. 獣医感染症学実習Ⅰ(1)
4. 獣医感染症学Ⅱ(2) ----- 動物感染症の制御
(ウイルス、リケッチア)
5. 獣医感染症学実習Ⅱ(1)
6. 獣医感染症学Ⅲ(2) ----- 動物感染症の制御(寄生虫)
7. 獣医感染症学実習Ⅲ(1)

F. 野生動物に関する教育 (7単位：講義6+演習1)

1. 動物生態学(2) ----- 生態系の成立と遷移、個体・群の生態・行動
2. 野生動物保護管理学(2) ----- 野生動物の行動・習性、保護管理対策論
3. 野生動物疾病学(2) ----- 水生・陸生動物、野鳥の病気の原因、
症状、治療、予防対策
4. 野生動物学演習(1) ----- 野生鳥獣の保護管理の原理と方法論、
野外観察、傷病鳥獣のリハビリ

G. 獣医師法および関連法規と生命倫理に関する教育 (3単位：講義2+演習1)

1. 獣医関連法規(1) ----- 公衆衛生、家畜衛生関係法規、国際的衛生、
行政組織、行政施策
2. 獣医倫理学(1) ----- 獣医師の倫理・使命、動物の福祉・倫理
3. 動物行動学演習(1) ----- 愛玩動物行動、動物の社会的機能論、
動物介助活動、人間・動物関係論

○ 専修授業科目 36単位(講義14+演習19+実習3)

A. 動物別獣医学教育 (7単位うち必修3単位：講義6+実習1)

1. 反芻動物疾病学（必修 2）-----反芻動物（ウシ）の行動、疾病、治療
2. 反芻動物疾病学実習（必修 1）
3. 馬疾病学（選択 2）-----行動、疾病、治療
4. 豚疾病学（選択 2）-----行動、疾病、治療
5. エキゾチックアニマル疾病学（選択 2）-生理・解剖、行動、疾病、治療
6. 家禽疾病学（選択 2）-----生理・解剖、行動、疾病、予防
7. 水生動物疾病学（選択 2）-----生理・解剖、行動、疾病、予防

B. 総合獣医学演習 （必修 15 単位：演習 15）-家畜病院の臨床例を用いた実践的な教育（小動物臨床が中心となる）

- 1）学生 1 グループ 6 名
- 2）10 診療科をローテーション
- 3）プレ・レクチャー、診断・治療、症例検討
- 4）週 5 日

C. 特別研究・学外実習（必修 6 単位：演習 4+実習 2）

1. 特別研究（4）-----卒業論文、基礎あるいは症例研究、データ解析、報告書の作成、口演発表
2. 学外実習（2）-----学外施設での 2 週間の体験学習、学習レポートの作成

D. 専修特別講義（8 単位うち必修 2 単位：講義 8）

1. 国際獣医学（必修 2）-----国際的な獣医学の現状と将来予測、世界の獣医関連疾病の動向など
2. 特別講義Ⅰ（選択 2）-----神経科学、記憶、学習、再生・移植・回路形成、可塑性、感覚中枢など
3. 特別講義Ⅱ（選択 2）-----特殊疾病、腫瘍学など
4. 特別講義Ⅲ（選択 2）-----特殊治療、歯科など
5. 特別講義Ⅳ（選択 2）-----熱帯獣医学、高温、乾燥地域の病気の診断・治療・予防など
6. 特別講義Ⅴ（選択 2）-----臓器移植、人工臓器など

別表3 学年別専門授業開講科目一覧

学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	学部5年	学部6年
獣医学概論 2 基礎獣医学演 1 基礎生物物理 2 基礎化学 2 生化学Ⅰ 2 生化学Ⅱ 2 細胞生物学Ⅰ 2 生物学実験Ⅰ 1	生物統計・情報処理演習 1 自然科学英語演習Ⅰ 1 自然科学英語演習Ⅱ 1 牧場実習 1 畜産学概論 2 実験動物学 2 実験動物学実習 1 細胞生物学Ⅱ 2 生物学実験Ⅱ 1 動物育種学 2 動物繁殖学演習 1 免疫学 2 動物栄養学 2 動物行動学演習 1 比較解剖学・生理学演習 1 比較解剖学・生理学演習 1 動物生態学(2) 2	薬理学総論(2) 2 トキシコロジー 2 薬理学・トキシコロジー-実習 1 臨床総論 2 臨床病理 2 基礎臨床実習Ⅰ 1 基礎臨床実習Ⅱ 1 放射線学 2 疫学 2 病原生物学総論Ⅰ 2 病原生物学実習Ⅰ 1 病原生物学総論Ⅱ 2 病原生物学実習Ⅱ 1 獣医感染症学Ⅰ 2 獣医感染症学実習Ⅰ 1 獣医感染症学Ⅱ 2 獣医感染症学実習Ⅱ 1 獣医感染症学Ⅲ 2 獣医感染症学実習Ⅲ 1 遺伝病学 2 家畜管理学 2	循環器・呼吸器病学 2 循環器・呼吸器病学実習 1 病理学総論 2 病理学実習 1 内分泌・代謝病学 2 内分泌・代謝病学実習 1 獣医公衆衛生学概論 2 人獣共通感染症学 2 人獣共通感染症学実習 1 血液学 2 血液学実習 1 食品衛生学 2 食品衛生学実習 1 運動器・脳神経病学Ⅰ 2 運動器・脳神経病学Ⅱ 2 運動器・脳神経病学実習 1 環境衛生学 2 環境衛生学実習 1	消化器病学 2 消化器病学実習 1 泌尿器・生殖器病学 2 泌尿器・生殖器病学実習 1 獣医関連法規 1 獣医倫理学 1 学外実習 2 皮膚・眼科学 2 皮膚・眼科学実習 1 総合獣医学演習 15 野生動物保護管理学 2	家畜衛生学 2 野生動物疾病学 2 野生動物学演習 1 反芻動物疾病学 2 反芻動物疾病学実習 1 国際獣医学 2 特別研究 4 馬疾病学 選2 豚疾病学 選2 イソ・チッカニマル疾病学 選2 家禽疾病学 選2 水生動物疾病学 選2 特別講義Ⅰ 選2 特別講義Ⅱ 選2 特別講義Ⅲ 選2 特別講義Ⅳ 選2 特別講義Ⅴ 選2
合計単位数 14 講義 12 演習 1 実習 1	合計単位数 24 講義 14 演習 7 実習 3	合計単位数 34 講義 26 演習 0 実習 8	合計単位数 28 講義 20 演習 0 実習 8	合計単位数 30 講義 10 演習 15 実習 5	合計単位数 34 講義 28 演習 5 実習 1

別表4 授業時間割（前学期）

学年	月			火			水			木			金		
	1, 2	3, 4	5, 6, 7	1, 2	3, 4	5, 6, 7	1, 2	3, 4	5, 6, 7	1, 2	3, 4	5, 6, 7	1, 2	3, 4	5, 6, 7
1											獣医学概論 (2)	基礎獣医学演習 (1)	基礎生物物理学 (2)	基礎化学 (2)	
2						生物統計・情報処理演習 (1)	自然科学英語演習Ⅰ (1)		牧場実習 (1)	畜産学概論 (2)	実験動物学 (2)	実験動物学実習 (1)		細胞生物学Ⅱ (2)	生物学実験Ⅱ (1)
3	薬理学総論 (2)	トキシコロジー (2)	薬理学・トキシコロジー実習 (1)		臨床総論 (2)	基礎臨床実習Ⅰ (1)	放射線学 (2)	疫学 (2)			病原生物学総論Ⅰ (2)	病原生物学実習Ⅰ (1)		病原生物学総論Ⅱ (2)	病原生物学実習Ⅱ (1)
4		循環器・呼吸器病学 (2)	循環器・呼吸器病学実習 (1)		病理学総論 (2)	病理学実習 (1)		獣医公衆衛生学概論 (2)			人獣共通感染症学 (2)	人獣共通感染症学実習 (1)		血液学 (2)	血液学実習 (1)
5		消化器病学 (2)	消化器病学実習 (1)		泌尿器・生殖器病学 (2)	泌尿器・生殖器病学実習 (1)	獣医関連法規 (1)	獣医倫理学 (1)	学外実習 (1)	学外実習 (1)		野生動物保護管理学 (2)		皮膚・眼科学 (2)	皮膚・眼科学実習 (1)
6		野生動物疾病学 (2)	野生動物学演習 (1)		反芻動物疾病学 (2)	反芻動物疾病学実習 (1)			国際獣医学 (2)	家畜衛生学 (2)		水生動物疾病学 (選2)	特別研究 (1)		特別研究 (1)

：一般教養授業科目

別表5 授業時間割（後学期）

学年	月			火			水			木			金		
	1, 2	3, 4	5, 6, 7	1, 2	3, 4	5, 6, 7	1, 2	3, 4	5, 6, 7	1, 2	3, 4	5, 6, 7	1, 2	3, 4	5, 6, 7
1										生化学Ⅰ (2)	生化学Ⅱ (2)			細胞生物学Ⅰ (2)	生物学実験Ⅰ (1)
2		動物育種学 (2)	動物繁殖学演習 (1)		動物栄養学 (2)	動物行動学演習 (1)	自然科学英語演習Ⅱ (1)	免疫学 (2)			動物生態学 (2)	比較解剖学・生理学演習Ⅰ (1)			比較解剖学・生理学演習Ⅱ (1)
3		獣医感染症学Ⅰ (2)	獣医感染症学実習Ⅰ (1)		臨床病理 (2)	基礎臨床実習Ⅱ (1)	遺伝病学 (2)	家畜管理学 (2)			獣医感染症学Ⅱ (2)	獣医感染症学実習Ⅱ (1)		獣医感染症学Ⅲ (2)	獣医感染症学実習Ⅲ (1)
4		食品衛生学 (2)	食品衛生学実習 (1)		内分泌・代謝病学 (2)	内分泌・代謝病学実習 (1)		運動器・脳神経病学Ⅰ (2)			運動器・脳神経病学Ⅱ (2)	運動器・脳神経病学実習 (1)		環境衛生学 (2)	環境衛生学実習 (1)
5	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)	総合獣医学演習 (1)
6	馬疾病学 (選2)	豚疾病学 (選2)		イザナチクアニル疾病学 (選2)	家禽疾病学 (選2)		特別講義 (選2)	特別講義 (選2)		特別講義 (選2)	特別講義 (選2)	特別研究 (1)		特別講義 (選2)	特別研究 (1)

：一般教養授業科目

新獣医学教育のカリキュラム案の特徴と解説

「岐阜大学獣医学科が目指す新獣医学教育構想の理念」を具象化するための一案として、本カリキュラム案を作成した。この教育カリキュラムの特徴は、(1)(財)大学基準協会「獣医学教育に関する基準」も勘案し、作成されたこと、(2)体験学習・実践教育を主体におくこと、(3)コース制をとらないこと、(4)器官別獣医学教育を柱とすること、(5)特別研究(卒業論文)を課すこと、(6)臨床教育に家畜病院を活用すること、(7)公衆衛生教育を充実させること、(8)野生動物と生態系を特色とすること、(9)国際化教育をめざすこと、そして(10)ゆとりを持たせたことである。

(1)(財)大学基準協会「獣医学教育に関する基準」との関連性

平成9年2月に改訂された(財)大学基準協会による「獣医学教育に関する基準」の理念・目的と我々のそれとが合致した。そこで、本カリキュラム案の作成にあたり、その基準も念頭におくこととした。この基準に基づいて、学生定員60名以上、教官数72名以上の規模の獣医学教育を想定している。

(2)体験学習・実践教育

本カリキュラムでは、体験学習・実践教育を主体においた。基礎および専門授業科目を種類別にみると、講義が50種類に対して実習・演習は30種類あり、その実習・演習の占める割合は約4割と高い比率になっている。内容についても、それぞれの講義に対応する実習を設け、さらに基礎獣医学演習、総合獣医学演習(ポリクリ)、学外実習、特別研究(卒業論文)などの実践的かつ総合的な教育内容を取り入れた。

(3)獣医学ジェネラリスト教育

6年一貫教育を通し、すべての学生に獣医学の各分野に関する基礎的知識と基本的技能を偏りなく修得させる目的すなわち獣医学ジェネラリスト教育の観点から、コース制を採用しないこととした。高度な専門獣医学教育については、卒後教育あるいは大学院教育において行われるように、別途整備する必要があると考えた。

(4)器官別獣医学教育

これまで分断される傾向にあった基礎と臨床および応用教育に連続性をもたせ、学生にとってより体系的で理解しやすい内容とする目的で、主な器官（血液、循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器、運動器、内分泌系、代謝系、皮膚および眼）について、各器官毎に解剖、生理、生化学、病態、治療などの講義を各専門家のリレー方式により行うこととした。それぞれの分野の体系付けは、免疫学、比較解剖学・生理学、薬理学総論、臨床総論、病理学総論、病原生物学総論、獣医感染症学、放射線学、疫学および遺伝病学において、各分野を概説することで行う。

（５）特別研究（卒業論文）

「獣医学教育に関する基準」には、特別研究（卒業論文）を必修とするように記載されている。岐阜大学獣医学科においても、獣医学という科学を基礎とし、社会に貢献できる人材を養成するためには、「基本的な知識の連携・発展により、新しい事象を理解し、問題を解決する能力」と「この能力を社会に貢献できるようにする方法（プレゼンテーション）」が重要であるという認識となった。これらの能力を開発するためには、小人数を対象とした特別研究（卒業論文）が最も目的に合う。特別研究の内容は、学生の希望により基礎研究活動と動物医療活動に分け、それぞれデータ収集と解析、報告書の作成、口演発表を行うこととした。今回の特別研究（卒業論文）は、基本的な問題解決ならびに公開能力の開発を目標とするため、岐阜大学獣医学科で課してきた従来の卒業論文の単位数より少ない４単位とした。

（６）小動物臨床を中心とした臨床教育

豊富な臨床例を扱うことができる家畜病院を活用して、基礎獣医学演習、基礎臨床実習、総合獣医学演習（ポリクリ）、特別研究（卒業論文）などにおいて、実体験に基づく学習を行い、臨床に関する問題解決能力を養成する。岐阜大学のこれまでの特徴から考えると小動物が中心となる。

（７）公衆衛生学教育

獣医公衆衛生学については、その対象の違いから臨床とは別に位置付けた。その準備範囲が広範化し、内容も高度化していることから、人獣共通感染症学、食品衛生学、環境科学および疫学に分けて、教育の充実を図ることとした。全体的な体系付けを行うため、獣医公衆衛生学概論を設けた。

(8) 野生動物と生態系

岐阜大学農学部獣医学科がこれまで進めてきた教育研究の実績および周辺の環境を鑑み、野生動物と生態系を特色ある教育として掲げた。野生動物に関する教育として動物生態学、野生動物保護管理学、野生動物疾病学および野生動物学演習を齊一教育で行う。

(9) 国際化教育

獣医学の国際化に対応できるように自然科学に関する英語の演習を必修とした。また、国際的な獣医学あるいは疾病の動向などを学ぶために国際獣医学を新設し、これを必修とした。これは、特にアジア地域を視座におき、この地域の獣医学に関するトピックを中心に構成する。

(10) ゆとりの教育

獣医学は実学であり、獣医師として必要な知識と技能の修得に多大の時間を必要とする。しかし、限られた時間内では、すべての知識・技能を教授することは不可能であるため、必然的に学生自身で考える学習が必要になる。また、獣医師として社会的な役割を担うためには、獣医学のみではなく、豊かな教養も必要であり、このためにはカリキュラムにゆとりを持たせる必要がある。専門教育の最低取得単位数について、岐阜大学の現在のカリキュラムでは 159 単位であるが、この新獣医学教育カリキュラムでは 135 単位として、教育にゆとりをもたせた。

(11) 多様な入試制度に対応したカリキュラム

岐阜大学獣医学科では、多様な人材の育成を目的として、一般選抜に加えて学士3年次編入試験、推薦入試、帰国子女選抜および私費外国人留学生選抜の多様な入試制度を実施している。さまざまな分野で活躍できる複合的な能力のある人材の育成にも努めるべきであり、これらの多様な入学者選抜制度に対応したカリキュラムを別途に用意する必要がある。